



北海道

高P連だより

〒060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目1番 第二北海道通信ビル7F
 TEL (011) 232-0007 FAX (011) 232-0006
 URL: <http://www.hokkaido-koupren.com/>

今号の内容

- ▶ シリーズ北の志
 - ・石狩南高校
 - ・熊石高校
 - ・洞爺高校
 - ・斜里高校
- ▶ 全国高P連大会岩手大会
- ▶ 総会報告
- ▶ 道高P連大会北見大会
- ▶ 支部だより

北海道石狩南高等学校



保育園の避難訓練
 手をつないで園児は安心



北海道熊石高等学校

67年の歴史に幕
 「ありがとう」
 ～私たちは熊高を忘れない～

Heart to Heart 北の志

—ひたむきに頑張る君たちを応援したい—

今号より「北の志」は、北海道全ての高校掲載を志してリニューアル。
 皆さんお楽しみに。次は君達の高校だ!



だべ!

北海道洞爺高等学校

洞高カフェ
 最後のメニュー



64年間ありがとう

北海道洞爺高等学校

開校記念式典：平成27年11月1日 閉校日：平成28年3月31日



知床自然体験学習
 ～向こうには知床連山～

北海道斜里高等学校



北海道石狩南高等学校

副校長 原 田 稔 朗

本校は、石狩の恵まれた自然の中で育まれ、地域に支えられ、今年度で33年目を迎える発展を目指している学校です。

開校以来の校訓である『**博学篤志**』を定め、3つの教育目標、

「知性を高め 創造性豊かな人になろう」

「心を磨き みんなと協力できる人になろう」

「からだを鍛え 実践力を身につけた人になろう」

を掲げ、生徒にとっては「一番楽しい・一番厳しい・一番いごちのいい」学校であるとともに、地域社会に貢献できる人材教育を推進しています。

本校の特色ある取組や、PTAの活動、生徒たちの活動の一端を紹介いたします。



石南高祭 無料休聴所

まずは学校祭「石南高祭」です。生徒が一番楽しんで盛り上がる最大の行事です。恒例の行灯行列では、沿道でご覧になられた多くの地域の皆様にはたくさんの声援をいただきました。続いての花火大会では、打ち上げられるたびに大きな

歓声が上がりました。PTA**育成委員**は学校祭では無料休聴所と一般公開日の入場者受付、行灯の審査と行列時の交通整理等のお手伝いをしています。担当した委員からは、「とても忙しかったが、生徒が活躍する場面を間近で見られて、やって良かった」との声が聞かれました。

また、PTA**広報委員**は、7月に続く『PTAだより』次号発行のため、学校祭の一部始終をカメラに収め、生徒や先生たちへのインタビューなど、記事作成を楽しみながら進めています。**PTA研修委員**は、主に本校の視察研修旅行の企画・運営を担当します。毎年、多数の保護者と教員が参加するとても実り多い企画となっています。今年度は10月に実施を予定しており、皆が今から楽しみにしています。

また、札幌・石狩の北地区5校（札幌英藍・札幌北陵・有朋・石狩翔陽・当別）とは毎年、「合同研修交流会」を実施しています。講演や意見交換を通して、交流と研修を深めています。山本富造会長のリーダーシップのもと、活発に活動しています。

今年度から始めた保護者向けの取組として、「保護者向け進路別受験ガイダンス」を紹介いたします。7月18日（土）の全学年生徒対象の模擬試験と並行して、全学年保護者を対象に、大学・短大・医療系・専門学校等の進路希望別に各校から講

師を招き、2部構成にて実施しました。約240名の保護者が熱心に聞き入る様子から、保護者の意識の高さが伺えました。



進路別受験ガイダンス

次に生徒の活動として、「保育園の避難訓練の協力」を紹介いたします。本校が避難所の指定があることから、近隣の保育園の避難先として、訓練の協力をしました。本校生徒が玄関で迎え入れ、手をつないで園児を安心させました。生徒にとっても防災意識の醸成の観点から、学習する部分が多かった取組でした。字数の関係でまだまだ書ききれませんが、石狩南高校は生徒の活動も、PTAの活動とともに活発な学校です。



保育園の避難訓練

北海道熊石高等学校

教頭 平 石 聡

1 特色ある教育

(1) 販売実習・漁業体験
センター校の八雲高校と合同で、双方の郷土理解と町の産業発展に貢献する意欲を養うために、地域の特産品を札幌丸井今井前で販売しています。また、熊石地区の水産資源を活用して、漁業への理解と環境保護への行動力、食の安全への考え方を身につけるため



漁業体験

に、漁業体験を実施しています。

(2) 高校間連携

複数の教員による授業展開と専門性を活かした指導により、相互の教育課程の維持充実を図ることを目的として、長万部高校との高校間連携を実施しています。長万部高校の理科と体育科の教員が来校し、本校の教員と一緒に授業を展開しています。また、本校からは数学の教員が長万部高校へ行き、授業をしています。

2 地域との関わりの中での学校行事

(1) 体育大会

(KUMASHI GAMES)
全校生徒が6名しかいないため、実施可能な競技は



学校祭

どうしても限られてしまうので、PTA会員や町民の方にも参加していただいて、体育大会を実施していきます。今年度も昨年度に引き続き、熊石愛好会のメンバーと一緒にパークゴルフをやりました。その後、一緒に昼食をとり、楽しい一時を過ごしました。

(2) 学校祭(熊高祭)

最後の熊高祭を盛り上げようと、PTA会員、同窓生、商工会、婦人会の皆さんが協力してくださり、バザーや縁日、フリーマーケット等を実施しました。また、生徒が制作した行灯1台だけでは寂しすぎるとい声で周囲からあがり、同窓生によるメモリアル行灯を制作したほか、当日は地域の祭りでも活躍している子供山(山車)も一緒にあって町内を練り歩き、合計3台という豪華な行列になりました。

(3) 老人スポーツ大会
例年実施してきた会場が改修工事のため、昨年度から本校体育館を会場に開催しています。120名を超える町内の老人クラブの方と一緒に競技をしたり、熊

(4) 地域活性化プロジェクト
産官学が連携した地域活性化プロジェクトに参加することになり、八雲町が提携を結んでいる札幌大谷大学の学生や地域住民と一緒に「地域の財産の掘り起こし」についてワールド・カフェ型で話し合ったり、現状を認識するために地域住民へのインタビューに同行しました。



老人スポーツ大会

石音頭を踊ったりします。地域の方との世代間交流の場となることで、お互いに豊かな関係性を築くとともに、貴重な体験となっています。

3 閉校に向けて

同窓生やPTAを主体として組織された協賛会を中心として、記念事業がすでに実施されたり、これから開催される事業の準備が着々と進んでいます。開校以来67年間の感謝の気持ちを表した看板の設置、定時制の卒業生による昔の思い出を語る会、閉校式の挙行、感謝の集いの開催、記念誌の発行、校歌のCD化、記念碑の建立等、たくさんの事業がありますが、同窓生や地域住民をはじめとした大勢の方の協力のもと、「ありがとう」私たちは熊高を忘れない」という理念を掲げ、地域と学校が一体となって有終の美を飾るべく取り組んでいます。

北海道斜里高等学校

校長 狩野 康弘

世界自然遺産の町の高校

本校は、昭和十六年に斜里実科高等女学校として開校したオホーツク東部地域の伝統校です。創立以来、幾多の変遷を経た後、平成十六年には、普通科・商業科から総合学科に学科転換し、特色ある学校づくりをさらに進めています。

本校のある斜里町は、人口一万二千人ほどの農業と漁業、観光を主な産業とする町です。毎年国内外から多くの観光客が訪れる「世界自然遺産・知床」を擁する自然豊かな土地で、校舎からも、日本百名山の斜里岳と羅臼岳をはじめ、雄大な知床の峰々を間近に望むことができます。

本校は、生徒のほぼ九割が地元斜里町から入学する「地域の学校」で、地域との強い結びつきの中、PTAや同窓会、地域の皆様からの様々な支援をいただきながら、地域に根ざした教育活動を展開しています。



知床五湖散策



校門から見た校舎

特に、総合学科の趣旨を生かした「生徒の主体性を重んじ、個性を伸ばす教育」として、「人文」「自然科学」「情報ビジネス」「知床・産業」の四つの「系列」(選択しやすいように関連性をもった科目をまとめたグループ)を設置し、生徒が、大学・短大・専門学校等への進学から公務員・民間就職に至る多様な進路に対応した学習を進められるようにしています。

中でも、「知床・産業系列」は、本年度から関係の授業を開始した新しい系列で、福祉や観光等の学習を通して、地域に貢献できる力やホスピタリティ(おもてなしの心)等を育み、地域の将来を担う人材の育成を目指しています。

また、キャリア教育にも力を入れており、一年次の学校設定科目「産業社会と人間」では、自己理解や人生設計などを通して、生徒に自身の可能性の気づきを促し、将来についてじっくりと考えさせています。

さらに、学校設定科目「知床自然概論」や「知床自然体験学習」、「史跡発掘体験学習」等の授業では、知床博物館や知床自然センター等、地域の教育資源・教育力を活用した活動を行っており、平成二十三年には、これらの実践により、本校の「ユネスコスクール」加盟が承認されています。

加えて、PTAや同窓会などの支援を受け、予備校のオンデマンドサテライン講習の実施や、資格検定・進学模擬試験受験等への経済的補助(キャリア・アップ・プラン)など、生徒の学力向上や進路実現に向けた取組も行っています。



水棲生物調査

昨年は知床の国立公園指定から五十周年、今年は世界自然遺産登録から十周年と、アニバーサリーイヤーが続いています。本校では、引き続き、PTAの皆様や地域と密接に連携し、知床の豊かな自然をはじめ、地域の教育資源・教育力を活用した特色ある教育活動を推進し、教育の質の確保・向上を図ってまいります。

北海道洞爺高等学校

校長 佐々木 淑子

64年間ありがとう！

北海道洞爺高等学校は、平成二十八年三月末をもって六十四年間の歴史に幕を閉じることとなりました。

【特色ある活動】

本校のさまざまな活動の中、「ECOプロジェクト活動」・「地域教育力を活用した体験活動」・「地域貢献活動」についてご紹介します。

①「ECOプロジェクト活動」～「地産地消」「環境保全」をテーマに取り組む活動です。これは、地元生産物(果物・野菜等)を材料とした菓子製品の開発、新聞エコバッグの普及、布製箸袋等の環境保全関連グッズの研究・製作・販売などの活動です。その中でも、とうや水の駅で年四回開催する「洞高カフェ」では、菓子づくりを通して作



洞高カフェ (マドレーヌ)



総合学習 (木材加工)



洞高カフェ (全員)

ることを学び、提供する喜びを知り、継承が人との輪を広げるというストーリー性ある取組となっていました。また、店舗経営によって課題解決力・状況判断力を向上させるとともに、コミュニケーション能力を育むキャリア教育の一つとしても位置付けています。

②「地域教育力を活用した体験活動」～「洞爺ネイチャー」「農業」「木材加工」の分野に分かれて体験する活動です。「洞爺ネイチャー」では、地元ツアーガイドの方の案内で、昭和南山登山(許可制)・ジオパーク学習・カヌー実技など自然について深く学びます。「農業」では本校OG



高齢者との交流

の指導のもと、雑草抜きから摘芯、収穫まで、食を支える農業を知る機会として、います。「木材加工」では、地元カヌー工場の親方の手ほどきで、木材加工の作業を通して木の温かみを感じながら、本立てやコーナラック等を完成させます。昨年度までは以上の三つに加え、地元伝統芸能の「香川獅子舞」も設定し、伝承活動として取組みました。

③「地域貢献活動」～ボランティアと異年齢交流の活動です。洞爺湖マラソン給水ボランティアや小・中高合同で行う地域清掃活動・高齢者との交流活動や本校生徒が先生となり小学生へ教える家庭科授業(裁縫と調理)などがあります。

以上、「生活ビジネス科」として地域の特色を十分に活かしながら、家庭や地域の信頼と期待に応える「愛され続ける学校づくり」に取組んできました。本校六十四年目、最後の卒業生二十三名は笑顔です！

第65回全国高等学校PTA連合会大会

岩手大会参加報告

北海道北見緑陵高等学校PTA会長 大野 浩二

第65回全国高等学校PTA連合会大会は、8月20日(木)～21日(金)の両日、岩手県岩手産業文化センター(アピオ)を主会場に全7会場で開催。分科会が行われました。大会テーマを宮沢賢治の詩『生徒諸君に寄せる』の文を引用し、「未来圏からの風をつかめ! 新時代を担う君たちと共に」を掲げ全国から約一万人が参集し盛大に開催されました。



●基調講演

基調講演は、芝浦工業大学学長・村上 雅人氏(盛岡市出身)が演題「夢高くして足地にあり The sky is the limit」としてお話しくださいました。ご自身が交換留学生として米国に行ったときの経験や専門の超電導工学で土佐ノ海関を浮遊させたエピソードを交えながら、教育の役割について「教育で人も国も変わる。若者に夢と希望と志を。」とご講話いただきました。

●開会式

開会式で全国高P連の佐野元彦会長より、「さまざまな思いや情報に触れ、各自の実践に生かす機会としてほしい」と式辞を述べました。次に、渡辺正和岩手大会実行委員長より歓迎の挨拶がありました。来賓には、下村博文文部

科学大臣、岩手県副知事、盛岡副市長らが列席しそれぞれの方からご祝辞をいただいた後、PTA活動にご尽力された団体及び個人の方々に文部科学大臣表彰や全国大会会長表彰が授与されました。

●分科会

分科会是全国高P連研究発表・四分科会・二特別分科会「防災教育・復興教育」「情報化社会と教育」にそれぞれ分かれ調査報告・各校の取組の発表・基調講演とパネルディスカッションなどがありました。また、本道を代表して第二分科会でテーマ「進路指導とPTA」先輩たちに学び、将来の職業を考える」として事例発表されました北海道帯広柏葉高等学校PTA会長・山本マサヒコさんには心から敬意を表します。

●記念講演

記念講演では、開催地・盛岡市出身の映画監督、大友啓史さんが演題「アドリブを生きる力」として自身が関わった作品、NHK大河ドラマ「龍馬伝」(映画)の話を交えながら「アクショントをすらすら楽しめ、それを作品としての力に変えていくアドリブ力をどう蓄えていくのか」について時にユニークに時に熱く講話されました。



今回の研修に参加して、全国各地の熱意あるPTA活動の取組を肌で感じる事ができました。また、全国の会員の皆様から数多くの情報の提供や意見交換ができ、本校のこれからの活動へのたくさんのヒントをいただけたような気がします。さらに、東日本大震災後の東北の方々の復興にかける思いや感謝の気持ちに至るところに感じられるすばらしい大会でした。本大会で得た貴重な経験や情報を本校のPTA活動の充実に生かして、ますます活力ある活動となるよう決意を新たにしました。

●まとめ

紹介されました

アリーナ会場



北高PTAだより

『英朗』

『冬来たりば、春遠からし』

『お礼』

『お礼』

北高PTAだより

『お礼』

『お礼』

『お礼』

北高PTAだより

『お礼』

『お礼』

『お礼』

第65回全国高P連大会岩手大会 第2分科会発表を終えて...

北海道帯広柏葉高等学校PTA会長 山本 マサヒコ

「未来圏からの風をつかめ」
第65回全国高等学校PTA連合会大会、岩手大会。多くの会場の心に深い傷跡を残した東北地方を襲った東日本大震災の発生から、はや4年4カ月が経過しました。

この間に全国からの寄せられた有形・無形の支援とこの地で必死に復興を待つ人々との大きな懸け橋を、思い描くことが出来た開会式での渡辺大会実行委員長の挨拶。また、開催準備までの設備や心温まるおもてなしに触れ、今なお震災の影響に苦しむ被災地の人々の力強い決意を感じ取ることが出来ました。

メインテーマ「未来圏からの風をつかめ」に込められた想い。「子供たちに未来圏から吹いてくる透明な清楚な風」を頬に感じてほしい。手をかざして進むべき彼方を見つめて欲しい。そして、奮い立ってほしい。そして、私たち親もまた、これからの時代を担う子供たちと共に風上の未来圏について考えることへの問題を提起したサブテーマ「新時代を担う君たちと共に」を考える上で、最も相応しい場所だった様に思います。

大会期間中、全国各地の参加者と共に、基調講演、文科会、記念講演、更に大会の運営・準備、各種アクションを通して、本当に多くの事を学んだ3日間でした。



事例発表1
北海道帯広柏葉高等学校 PTA会長
山本 マサヒコ 氏

第2分科会においては、「進路指導とPTA」「キャリア教育」の推進とPTAというテーマを頂き事例発表を行う機会を頂きました。

和歌山県立桐蔭中学校、高等学校では、「人生を切り拓く力を身に付けさせるキャリア教育の実践」の発表があり、中高一貫の人間力育成やPTAボランティアとの連携などの事例に接する事ができました。また、鳥取県立倉吉東高等学校の、育友会「NPO法人倉吉鴨水館」の設立と運営においては、教育と地域の関わり方のモデルに思いました。

それぞれの地域の特性の中、各校の独自の活動をj知ることができ、これからのPTAと学校との連携の仕方や、子供達の成長の為にキャリア教育実践に向けて、新たな気づきを得る事ができました。

各々の活動はそれぞれ工夫がされており、とても独創的であり、発表以外の各々の活動もお聞きしながら、子供達の未来の為に同様の課題を抱え、共通の認識の上に立っている事を知り、とても心強く、自然と勇気が湧いてくる様な思いでした。

「何が不可能なのかを言うのは難しい。なぜなら昨日の夢は今日の希望であり、明日の現実なのだから。」ロバート・H・ゴダード(芝浦工業大学 村上雅人学長による基調講演より)

それでは、進学した後、それぞれ自分で決めた職業に就く事になります。我々がそうであった様に、高校時代は、自分の将来に大きな夢を膨らませる時期であると同時に、未来

に対する漠然とした不安が同居する、そんな多感な時期であります。ましてや現代は、日々変化を見せる国際情勢や社会環境など、子ども達を取り巻く状況は劇的に変化しており、子供達の生活や意識もそれにつれて大きく変化している時代です。我々親は、学校に無関心でも干渉しすぎてもいけない

北海道札幌旭丘高等学校

旭丘PTAだより
北海道札幌旭丘高等学校 父母と先生の会

PTA視察研修を終えて

旭丘祭PTA企画

旭丘祭PTAの発展にあたって

第4回全国高等学校PTA連合大会に参加して

全道研修大会に参加して

盛岡市アイス

北海道高等学校PTA連合会

平成27年度 総会 報告

日時 平成27年6月13日
場所 北見市民会館

審議事項

第1号議案

平成26年度事業報告
・事務局が会務報告と事業概要を説明。質問・意見等はなく、承認。

第2号議案

平成26年度収支決算報告
・事務局が一般会計報告、各特別会計決算報告を説明。

第3号議案

平成26年度会計監査報告
・蜂谷監事が「会則第10条第1項第4号の規定に基づき監査したが適正に執行されている」と報告。
※第2、3号議案は質問・意見等はなく、承認。

第4号議案

北海道高等学校PTA連合会会則の一部改正案
・事務局が提案説明。
①第5章の条・項を第4章に繰り入れる。

第5号議案

平成27年度役員改選案
・蜂谷役員選考委員長が第3回道高P連理事会の承認を得た9名の役員候補について会則8条に基づき推薦。質問・意見等はなく拍手により承認。

④単Pと連合会・支部との関係を明確にするため第6条を規定する。
⑤第25条の「見出し」を改正する。

会長 山本 富造
(石狩・石狩南・再)
副会長 新井田 寛

平成27年度 北海道高等学校PTA連合会役員・理事等名簿

平成27年7月25日現在

No.	役 職	所属等	氏 名	学 校 名	所属委員会	備 考
1	会 長	石 狩	山本 富造	石 狩 南	—	全国：理事・進路対策委員会副委員長 ★
2	副会長	石 狩	新井田 寛	札幌 月寒	健全育成	全国：健全育成委員会委員 ★
3	〃	〃	種田 千草	尚 志 学 園	総 務	全国：調査広報委員会副委員長 ★
4	〃	〃	原 貴彦	札幌あすかぜ	総 務	道高P連・安全互助会担当 ★
5	〃	〃	福井 玲子	札幌 新川	研 修	全国：研修委員会委員 ★
6	〃	校長協会	富田 敏明	札幌 南	総 務	北海道高等学校長協会会長 ★
7	監 事	胆 振	村上 義人	苫 小 牧 西	健全育成	
8	〃	石 狩	洞野 博文	大 麻	研 修	
9	〃	〃	下山 春美	札幌 東豊	総 務	
10	理 事	石 狩	湊 修一	恵 庭 北	総 務	総務委員長 ★
11	〃	〃	山崎 千鶴	札幌 稲雲	研 修	
12	〃	道 南	山本 潤一	函 館 西	健全育成	
13	〃	後 志	佐藤 公寿	小 樽 水産	研 修	
14	〃	空 知	小暮 滝弘	栗 山	研 修	研修委員長 ★
15	〃	旭 川	保格 裕和	旭 川 北	総 務	
16	〃	留 萌	海東 剛哲	留 萌	総 務	
17	〃	名 寄	工藤 紳吉	稚 内	健全育成	
18	〃	北 見	永田 裕一	北 見 北 斗	研 修	
19	〃	十 勝	松見 喜明	帯 広 緑 陽	健全育成	
20	〃	釧 路	天方 智順	釧 路 湖 陵	健全育成	
21	〃	根 室	小野 哲也	羅 白	健全育成	健全育成委員長 ★
22	〃	胆 振	山崎 浩之	苫 総 経	総 務	
23	〃	日 高	下川原 隆	浦 河	総 務	
24	〃	校長協会	大鐘 秀峰	札幌 北	研 修	校長協会指名理事 (校長協会副会長)
25	〃	〃	川口 淳	岩見沢 緑陵	研 修	〃 (校長協会副事務局長)
26	〃	〃	小笠原 聡	石 狩 南	総 務	〃 (道高P連会長校校長)
27	〃	〃	片岡 晃	恵 庭 北	健全育成	〃 (道高P連石狩支部長校校長)
28	〃	〃	小林 憲雄	札幌 稲雲	健全育成	〃 (道高P連次期石狩支部長校校長)
29	〃	〃	政野 仁	岩 見 沢 東	研 修	〃 (校長協会空知支部長)
30	〃	〃	能代 茂	文教大明 清	研 修	〃 (校長協会私学理事)
31	〃	教頭・副校長会	家近 昭彦	札幌 北	健全育成	教頭・副校長会会長 ★
32	〃	事務長会	永井 進	札幌 北	総 務	公立学校事務長会会長 ★
33	〃	次期全道大会主幹校	町田 修	道 愛 女 子	研 修	道愛女子副校長 (次期全道大会主幹校副校長)

★常任理事 ※【敬称略】

委員会人数

総 務 委 員 会 11名
研 修 委 員 会 11名
健全育成委員会 10名

広報小委員会

委員長 新井田 寛 (副会長)
委 員 種田 千草 (〃)
〃 下山 春美 (監 事)

事務局

宮川 恒美 (局 長)
伊藤 陽司 (次 長)
小田島美香 (局 員)

第6号議案

平成27年度事業計画案
・事務局が、研修事業、調査・啓発活動事業、健全育成事業、高校教育振興対策事業、表彰事業、広報活動事業、健康安全対策事業案と平成27年度の道高P連加入状況等組織の概要について説明し、質問・意見等はなく、承認。

洞野 博文
(石狩・大森・新)
下山 春美
(石狩・札幌東豊・新)

第7号議案

平成27年度収支予算案
・事務局が、一般会計予算案、各特別会計予算案を説明し、質問・意見等はなく、承認。

第8号議案

平成28年度道高P連総会
・第62回全道大会案
開催支部 道南支部
主幹校 道南女子
日時 平成28年6月11日～12日

第9号議案

平成29年度道高P連総会

第10号議案

その他 なし。
※提案された「審議事項」はすべて承認。
※報告事項等は省略。

・第67回全道大会案
開催支部 空知支部
・事務局が第8、9号議案を一括して説明し、質問・意見等はなく、承認。

会長コラム



北海道高等学校PTA連合会

会長 山本 富造

(北海道石狩南高等学校PTA会長)

「北海道高等学校PTA連合会」は、また新たな年度を迎えましたが、今年度は道高P連の手で設立した、「北海道高等学校安全互助会」の共済事業がスタートした年でもあります。お陰様で生徒と保護者、そして教職員を含めると、約18万5千人を対象に事業をスタートさせることができました。北海道の高校生の安全と健康を保持するとともに、PTA活動に参加する単位PTA会員の災害等に際し、お互いに支え合うという「相互扶助」の大きな輪を更に拡大するためにも、次年度に向けてご検討中の会員の皆様には「安全互助会」については是非ともご理解いただきたく、お願い申し上げます。

さて、昨今の急速な少子化傾向は学校数の減少やPTA会員の減少を招き、PTAの組織運営にも影響を及ぼしかねない状況となっております。また、子どもたちを取り巻く環境は依然として厳しく、スマホを巡る問題も深刻さを増しています。その中であって、保護者と学校教育関係者の団体である私たち「道高P連」が今日まで担ってきた役割には、子どもたちの成長や学校支援に欠かすことができないものがあります。今後は、これまで以上に会員の皆様の幅広いご意見に耳を傾けるとともに、子どもたちの応援団としてだけではなく各支部や単Pの応援団として活力ある組織運営を進めたいと考えております。

北海道高等学校PTA連合会は、引き続き、全国高P連、北海道教育委員会、北海道高等学校長協会をはじめ、関係諸団体との良好な連携を保ちながら、「すべては子どもたちのために」を合い言葉に全力で取り組みますので、本連合会へのご理解と更なるご協力をお願い申し上げます。

金道大会北見大会 会長挨拶より抜粋

北海道高等学校PTA連合会
第65回大会（北見大会）

北海道北見北斗高等学校 教頭 木村 成一

平成27年度の第65回道高P連大会北見大会が『身近な人と結ぶ信頼の絆』を大会主題に、「響けオホーツクの青空へ 未来を担う子どもたちへの応援歌」の大会メッセージのもと北見市民会館を主会場として2日間にわたる大会が開催された。



【開会式】

開会式では主催者を代表して山本会長が「子どもたちを取り巻く環境は依然と深刻さを増している。その中で保護者と学校関係者による団体である高P連が今日まで担ってきた役割には子どもたちの成長や学校支援に欠かすことのできないものがある。今後とも、各単Pの応援団として活力あ

る組織運営を進めたい」と決意を述べた。続いて本大会の実行委員長である北海道北見北斗高等学校の永田裕一会長は「子どもたちの主体性を育むことは親にとって今後も継続されるべき重要なテーマである。また、価値観の多様化は、情報のグローバル化とともに、さらに進展していくことと思われる。そのような時だからこそ、この信頼や絆といった心の側面に注目されるのではないだろうか」と呼びかけた。また、共催者挨拶として全国高等学校PTA連合会の佐野会長が「高校生を取り巻く環境の変化や多様な事象に対してPTA関係者はこれまで以上に真摯に向き合い、子どもたちと共に悩み、考え、子どもたちに寄り添いながら解決を図ることが求められている。そのためには、目先の対処療法に追われることなく、社会そのものの健全化を目指して保護者自身が家庭・学校・地域を結びつける役割を積極的に果たすべきだ」と訴えた。

【講演会】

講演は、オホーツク管内の網走南ヶ丘高等学校の卒業生であり、南極料理人



おなじみの元海上保安官第30次・38次南極越冬隊の西村淳氏を講師に迎え「ご飯にしよう!」というタイトルで講演が行われた。

講演の導入は、札幌のスーパーマーケット等での路上観察や東京の地下鉄での人間観察などをスライドを使いながら面白可笑しく説明することから始まった。次に、映画にもなった「ラーメンもうないの事件」で重曹をかんすい代わりを使ってラーメンの麺を作ったことやドーム基地で栽培した生野菜を水圧を利用して真空パックにするなど工夫次第で料理はできるなど南極基地で料理をした時のエピソードが紹介された。そして、南極観測任務やドーム基地での生活と人間関係を通じて人へ食事を提供することの重要性や人

と食事を摂ることの大切さ・食が人と人とのコミュニケーションを円滑にすることができると話された。

【分科会】

大会二日目は北海道北見北斗高等学校と北海道北見柏陽高等学校を会場に分科会が行われた。分科会のテーマとして「進路支援としてのPTA活動のあり方について」「子どもたちの高校3年間をどのように支えていくか」「PTA活動の参加率を上げるための取組」「親の気持ち」この気持ち「く通じ合っていますか」「学校行事を支援するPTA活動」など36の分科会に分かれて情報や意見の交換が行われた。それぞれ参加者の自己紹介の後、各単Pの活動事例が紹介され、それぞれの抱える課題を出し合う中で、時間が経つことも忘れるほど有意義な交流となった。



支部だより

室部
根支

知床羅臼より「つながり」をもてるPTA活動を

北海道高等学校PTA連合会 根室支部長 小野 哲也

(北海道羅臼高等学校PTA会長)

今年の根室管内の冬は本当に長く厳しく、多くの方が大変なご苦労をされてきたことと思います。

羅臼町においては、記録的な豪雪、毎週末の爆弾低気圧、度重なる臨時休校、授業進度、生徒の送り迎え等々、困ったことに関しては、枚挙にいとまがありません。そんな中、私も毎日のように除雪車で町道や学校地内外の除雪・排雪作業に関わり、疲労困憊でした。

その厳しい冬を越え、雪解けの春が進み、知床にもいよいよ夏が訪れました。今年には知床の自然が世界自然遺産十周年という節目の年となりましたが、羅臼の沖にはシャチやイルカ、マッコウクジラなどが見られるようになり、知床地区は記念行事や観光で賑わっています。

さて、根室支部は現在、七つの単Pで構成されており、6月6日(土)に支部総会を実施し、総勢54名の方に出席してもらいました。

開会式では、道高P連副会長の村上義人様、根室教育局長小山茂樹様、羅臼町教育長山崎守様、校長会根



室ブロッグ副会長小笠原茂美様に来賓としてご出席を賜り、ご挨拶をいただきました。

根室支部では総会に合わせ例年指導者講習会を実施しており、今年度は羅臼町での開催でしたので、知床の自然に触れてもらおうと、知床ネイチャークルーズ船長の長谷川正人様を講師として、クルージングによる羅臼沖の海洋生物の生物学と環境と観光について学びました。

当日は船が揺れ、気分がすぐれなかった方もおりましたが、参加した方からは、「羅臼にきてよかった」、「これほど多くのシャチがみられるなんてすごい」、「船長の説明が面白い」などの声を聞き、企画した私たちもほっと胸をなでおろしました。

その甲斐もあり、教育懇談会では、交流が盛んに行われ、これまで以上に「つながり」を持てたのだと思っています。

私は常々話題にさせてい



ただいていることですが、PTAが成り立つのも成り立たないも、すべては保護者の皆様の力によるものだと確信しています。

学校存続の問題や、不景気ゆえの経済問題など、様々な課題がありますが、力を注いでくれる方がいる限り、少しでも良い学校にしていこうと心からそう思え、前に進むことができます。

今後とも根室支部PTAの活動に際しまして、ご理解とご協力としてご支援を賜りますようお願い申し上げます。末筆とさせていただきます。

狩部
石支

「子どもたちの成長を願う支部の活動を目指して」

北海道高等学校PTA連合会 石狩支部長 湊 修一

(北海道恵庭北高等学校PTA会長)

石狩支部は、今年四月に開校した札幌開成中等教育学校が新たに加盟し、現在、五十二校六十二単Pで構成されています。

五月二十九日(金)にホテルライフォート札幌で行われた石狩支部総会では、道高P連から洞野副会長にご出席をいただき、百八名の参加者により盛会に開催することができました。議事として、前年度の事業報告・決算報告、今年度の役員・事業計画・予算案などを全会一致で承認していただきました。

総会終了後に行われました教育懇談会には、他の公務を終えられた道高P連の山本会長も参加されご挨拶をいただきました。会では各単P間の親睦が深められるとともに、山本会長も各単Pの席を回り活発な意見交換が行われ、道高P連と石狩支部の絆がより一層深まったとても楽しいひとときとなりました。

今年度の支部の事業計画といたしましては、五月の支部理事会及び支部総会の開催、六月の全道高P連北見大会の総会、講演及び分



科会への参加、八月の全国高P連若手大会への参加がありました。

また、九月四日(金)には、支部視察研修会を実施しました。今年は、旭川市旭山動物園での研修会となりました。この日は、バス四台での移動で、移動中は大雨でしたが、旭山動物園に着いた時には、雨も上がり限られた時間ではありましたが、多くの動物を目にすることができました。また、バスの中では、ビンゴゲーム大会や旭山動物園あれこれクイズを行い、笑いあいの雰囲気の中、各単Pの参加者の親睦がとて深まりました。

さらに、十月九日(金)には、支部「教養講座」研修会をホテルライフォート札幌で開催しました。福岡県家庭教育アドバイザーで助産師・思春期保健相談士の内田美智子様を講師に、「いのちをつなぐ子どもたちへ」いざ一人生きていく日のために」と題して講演会を行いました。

内田様は、福岡県行橋市で内田婦人科医院をご主人とともに開業されておられ、全国の学校や地域にかけ、思春期の子どもに対する親のかかわり方などについて講演をされています。

当日、支部会員の皆様が多参加され、研修会は盛大なうちに終了しました。

最後に、支部事務局校として支部の事業を運営するに当たり、各単Pの皆様のご協力と道高P連のご支援をいただきながら、子どもたちの成長の一助となるために、学校・家庭・地域が三位一体となり活動を行っています。一年間、どうぞよろしくお願ひします。